

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 3日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21330038

研究課題名（和文） 未（非）承認国家をめぐる国際関係に関する学際的研究

研究課題名（英文） Inter-disciplinary Studies on Un-/Non-Recognized States

研究代表者

中井 和夫（NAKAI KAZUO）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：40188868

研究成果の概要（和文）：「未（非）承認国家」とは、既存の主権国家の領域の一部を実効的に統治しながら、国際的な承認を得られない統治体を指す。本研究では、この「未（非）承認国家」をめぐる国際政治上の問題を、各地域固有の政治力学にも十分に留意ながら、多面的に検討するプロジェクトを展開した。結果、国際政治、アフリカ研究、南東欧研究、国際法など多様な分野において数多くの研究業績が生み出された。また外部の研究者を招いて公開の研究会も開催されるなど、研究成果の発信や学術的な交流も積極的に図られた。

研究成果の概要（英文）：An ‘un-/non-recognized state’ is a political entity which, while ruling effectively over some portion of the territory of an existing sovereign state, cannot exit as a sovereign state due to lack of international recognition as such. Focusing on their international ramifications in various regional settings, this research project conducted multi-disciplinary studies on these entities. The four-year activities have produced a large amount of research output in diverse fields such as international relations, African studies, South-East European studies, and international law. Several public seminars on the subject were also held, which contributed to academic exchanges with other researchers.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2011年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2012年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
年度			
総計	14,500,000	4,350,000	18,850,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：国際法・国際政治・未承認国家・国家承認

## 1. 研究開始当初の背景

1990年代以降の国際社会において、従来の政治単位（主権国家）を有効に統治する政府機構が（一時的にせよ）崩壊（いわゆる破綻国家）、ないし大幅な変更（連邦国家の解体）を受ける形で、その領域の一部を時に実

効的に支配する新たな政治単位が出現し、その国際的な地位が問題化する事例が新たにみられるようになったほか、従来の国家の地位やその継続性をも問題とする議論が出てきた。前者は、ある程度実効的な政治単位として存在しながらも、国家承認を受けられず

に主権国家としての地位を得られていない、国際法上の「未（非）承認国家」（non-recognized states）であり、近年の国際政治における概念化の中では「事実上の国家」（de facto states）、あるいは「国家内国家」（states-within-states）として議論され始めた。しかも、現実にも、今年に入りセルビアのコソボ自治州が「独立」したほか、グルジアに対するロシアの侵攻とも連動する形でロシアによる国家承認が行われたアブハジアや南オセチアなど、「未承認国家」を取り巻く国際環境は急速に変化している状況にある。また、後者は「国家承認の取り消し」（withdrawal of recognition）の可能性に関する国際政治学と国際法学にまたがった問題でもある。本研究が対象とするのは、特に前者の問題である。

申請者はかつて柴宣弘（本研究連携研究者）、林忠行との共同研究の成果を『連邦制解体の比較研究：ソ連・ユーゴ・チェコ』（多賀出版、1998年）として出版したほか、平成17年度から20年度の4年間にわたり「破綻国家の生成と再生をめぐる学術研究」（基盤研究A）を行い、このプロジェクトの下に破綻国家に関する理論、実証両面での研究成果をあげてきた。この研究を展開する中で「未（非）承認国家」や「事実上の国家」が生成するという問題のヒントを得た。破綻国家に関しては、以前ハーヴァード大学で行われた「破綻国家」プロジェクトの成果がある。ロットバーグ（Rotberg, R.I.）を中心に行われた研究は *State Failure and State Weakness in a Time of Terror*, Washington, D.C.: Brookings Institution Press, 2003（事例研究）と *When States Fail?: Causes and Consequences*, Princeton: Princeton University Press, 2004（イシューをめぐる研究）の2つの論文集として公刊され、これ以降も国家破綻とその後の国家再建にかかわる「平和構築」分野のさまざまな研究が著わされてきた。

ただし、本研究の主要課題となる問題である「未（非）承認国家」に関する国際政治学分野の先行研究は必ずしも多いとはいえない。Bahcheli, Tozun et al. eds. *De Facto States: The Quest for Sovereignty*, London: Routledge, 2004 が論文集の形で事例研究（本研究が対象とする予定のコソボ、アブハジア、南オセチア、ソマリランドなどを含む）を、また Kingston, Paul and Ian S. Spears, *States within States: Incipient Political Entities in the Post-Cold War Era*, New York: Palgrave-Macmillan, 2004 が若干の理論研究と事例研究を行っている。また、国際法の観点からはアフリカの「ソマリランド」を事例とした、Schoiswohl, Michael, *Status and (Human Rights) Obligations of*

*Non-Recognized De Facto Regimes in International Law: The Case of 'Somaliland'*, Leiden: Martinus Nijhoff Publishers, 2004 が著わされている。

本研究は、「破綻国家の生成と再生をめぐる学術研究」の成果を部分的に引き継ぎながら（本研究に研究分担者として参加する石田淳、遠藤貢は「破綻国家」研究でも連携研究者として関与してきた）、この問題と密接にかかわる問題群としての「未（非）承認国家」や「事実上の国家」に焦点を絞ることで、こうした異形の国家ともいえる状況が生じている背景を理論と実証両面から考察することを試みるものである。

## 2. 研究の目的

本研究は、旧ソ連邦、東ヨーロッパ（主にバルカン地域）、アフリカを研究する地域研究者と国際政治学の理論研究者、シミュレーション研究者、国際法学者をメンバーとするチームによる複眼的な研究を展開することにより、「未（非）承認国家」や「事実上の国家」をめぐる国際政治の構造と各地域の国際政治力学を併せて解明しようとするものである。本研究においてまず明らかにしようとするのは、ここで「未（非）承認国家」「事実上の国家」と呼ぶ状況が形成される背景要因を歴史的に遡るほか、この問題をとりまく国際政治、地域政治の現実的な政治力学である。

ここで扱う地域はそれぞれにさまざまな歴史的背景を有している。それとともに、そうした歴史的要因にも規定される国際政治力学の下におかれおり、結果的に非承認国家の承認をめぐる国際対立が生じるという点も、興味深い問題となっている。例えば、セルビアの領域的一体性の主張は認めずにコソボの自決を認める一方で、グルジアの領域的一体性の主張を認めて南オセチアやアブハジアの自決は認めない（そしてそれを支援するロシアを非難する）欧米の「二重基準」の問題がある。また「ソマリランド」の事例に関してはアフリカ連合の対応の経緯、隣国エチオピアやアラブ諸国の立場を検討するほか、テロ対策の一重要地域として位置づけているアメリカの動向についても検討を加える形になる。

また、理論的な検討課題としては、事例によっては実効性と実態を兼ね備えている「未（非）承認国家」「事実上の国家」が、国家としてみなされない、あるいは逆に認められていくという現象が生じている「国際社会」における諸ルール、特に国家承認をめぐる法理論や政治を改めて検討し、こうした現象から考察できる国際関係の構造の一端の解明を試みる。こうした検討は、今日的な主権概念を再考する重要な射程を有するものでも

ある。

### 3. 研究の方法

研究代表者の中井、研究分担者の石田（国際政治理論）、連携研究者の西村（国際法）が、主に国際政治・国際法上の論点整理を行う一方で、中井（旧ソ連圏）、連携研究者の柴（旧ユーゴスラビア）、研究分担者の遠藤（アフリカ）が、それぞれの専門地域における実証的な事例研究を行う体制を編成した。各メンバーが上記体制のもとそれぞれ研究活動を遂行する一方で、関連文献・資料の収集をプロジェクトとして一括して進め、各自の活動を支える強力な研究基盤の形成と整備にも努めた。それを連携研究者の阪本が担当した。また、阪本はコンピュータ・シミュレーションや地理情報システム（GIS）に通じており、こうした技法を活用して国家破綻や未承認国家形成に関わるシミュレーションモデルやデータベースの構築も担った。

また、海外の研究者との意見交換や各国政府の立場に関する調査、さらに関連資料の収集を行うための現地調査も重視し、各地域の事例研究を担当するメンバーを中心に、海外調査を実施した。

さらに、研究会開催などを通じて、未（非）承認国家に関わる事例を研究する外部の地域研究者との交流の機会を持つなど、プロジェクトの成果の共有、および研究活動のさらなる活性化と深化も図った。

### 4. 研究成果

#### (1) 多面的で学際的な研究成果：

四年間にわたる活動の結果、メンバーの多様性・専門性を最大限に活用した、「未（非）承認国家」をめぐる学際色豊かな研究を遂行し、上記の研究目的をおおむね達成することができた。何より、「5. 主な発表論文等」が示すとおり、国際政治、アフリカ研究、南東欧研究、国際法など多様な学問分野において数多くの研究業績が生み出された点が特筆される。

まず、研究代表者の中井和夫は、ウクライナやグルジア、タジキスタンといった旧ソ連地域の民族紛争を扱った研究を進め、そのなかでプリドニエストル、南オセチア、アブハジアなど未承認国家の問題を実証的に考察した。

研究分担者の石田淳は、未承認国家や破綻国家に対する国際的な関与のあり方を、強制外交の論理に基づき、政治学の観点から理論的に分析した。

研究分担者の遠藤貢は、アフリカに対する国際社会の関わりを多様な観点から検討した。特に、崩壊国家の典型例とされるソマリアと、その中であって「事実上の国家」として機能し続ける北西部ソマリランドとを対

置させるなかで、未承認国家と向き合う国際社会の可能性と限界を浮き彫りにした。

連携研究者の柴宜弘は、未承認国家の典型例であるコソボを含め、旧ユーゴスラビア地域各所において旺盛に海外調査を実施した。その成果は、旧ユーゴスラビア連邦の解体の過程やコソボ独立の過程に関する歴史的な検証をはじめ、広範な研究業績に反映されている。

連携研究者の西村弓は、教科書の執筆も含め、国際法分野の研究に対して広範に貢献した。本研究に関わる分野では、ソマリア沖の海賊問題を事例に、国家破綻の状況下で起きる国際法上の問題に検討を加えた。

連携研究者の阪本拓人は、未承認国家や破綻国家の生成の根底にある、主権国家の領域秩序の統合と分裂に関する研究を展開した。コンピュータ・シミュレーションを用いて、ソマリアも含む北東アフリカ諸国における国家の統合と分裂の過程を再現・分析した業績が特筆される。

#### (2) 研究の交流と発信：

「3. 研究の方法」でも述べたように、本研究では、研究組織外部との学術交流の機会を積極的に求めたが、これらの機会は、本研究が生み出した成果の公開と発信の機会としても重要な意味を持っていた。特に、東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム主催のセミナーとして一般に広く公開された下記の研究会は、研究活動から獲得された知識の社会還元という意味でも、非常に意義深いものであった。

- ・ 2009年11月「非承認国家と正教地域コミュニティの生存戦略：合法化、服従、反抗（トランスニストリア、アブハジア、南オセチア）」（松里公孝氏（北海道大学スラブ研究センター教授））
- ・ 2010年11月「コソボ独立宣言後のバルカン情勢」（久保慶一氏（早稲田大学政治経済学術院准教授））

#### (3) 研究資源の形成と公開：

「1. 研究開始当初の背景」で指摘した「未（非）承認国家」に関する先行研究の全般的欠乏に鑑みて、本研究では関連文献・資料の収集を通じた研究基盤の形成にも意を用いた。四年間の研究活動を支えたこれら文献・資料は、内戦や国家破綻、国際政治や国際法、さらにアフリカ、旧ソ連地域の歴史や政治など、きわめて広範な分野に及んでおり、その大部分が、現在では東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラムの図書室の蔵書として広く閲覧の対象とされている。国家破綻や未承認国家に関する研究のさらなる発展に寄与する、貴重な研究資源となることが期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 21 件)

1. Takuto SAKAMOTO, Conflict Analysis in Virtual States (CAVS): A New Experimental Method Based on the Extensive Use of Multi-Agent Simulation (MAS) and Geographical Information System (GIS), JICA Research Institute Working Paper, 査読あり, 56, 2013, pp.1-27.
2. 西村弓, 海洋安全保障と国際法、日本国際問題研究所編『守る海、繋ぐ海、恵む海—海洋安全保障の諸課題と日本の対応』、査読なし、巻無し、2012、91-104 頁。
3. 遠藤貢、ソマリア問題の歴史と現状、アジア研ワールドトレンド、査読なし、205、2012、26-29 頁。
4. 遠藤貢、アフリカにおける『民主化』経験と政治体制評価の新課題、比較政治学会年報、査読あり、14、2012、1-26 頁。
5. 阪本拓人、アフリカの角における地域協定の展開：国家主権との関わりを念頭に、国際社会科学、査読なし、61、2012、91-101 頁。
6. 阪本拓人、情報技術と地域研究：コンピュータのなかのアフリカを事例に、地域研究、査読あり、12-2、2012、198-213 頁。
7. Nobuhiro SHIBA, Human Security and Reconciliation by History Education: A Case of the Balkan States, Proceedings of ECPD International Conference, 査読なし、6, 2011, pp.212-216.
8. 柴宜弘、歴史教育における和解の試み：バルカン諸国の場合、アメリカ太平洋研究、査読なし、11、2011、7-17 頁。
9. 遠藤貢、スーダン南部独立が生む新たな火種、外交、査読なし、7、2011、111-113 頁。
10. 石田淳、弱者の保護と強者の処罰：《保護する責任》と《移行期の正義》が語られる時代、年報政治学、査読なし、2011-1、2011、113-132 頁。
11. 西村弓、『海賊』行為に対する管轄権行使、海洋権益の確保に係る国際紛争事例研究、査読なし、2、2010、70-84 頁。
12. 遠藤貢、ソマリア：国内情勢と越境する『紛争』、外交、査読なし、2、2010、146-151 頁。

13. 遠藤貢、現代世界におけるアフリカ：主要国の関与の現状と課題、国際問題、査読なし、591、2010、5-13 頁。
14. 遠藤貢、グローバル化の中のアフリカ、国際政治、査読あり、159、2010、1-11 頁。
15. 阪本拓人、「混沌圏」の秩序：IGAD とアフリカの角、国際政治、査読あり、159、2010、72-86 頁。
16. 中井和夫、旧ソ連地域における紛争とその後、『破綻国家』の生成と再生をめぐる学際研究 報告書、査読なし、巻無し、2010、81-93 頁。
17. 西村弓、マラッカ海峡およびソマリア沖の海賊・海上武装強盗問題、国際問題、査読なし、583、2009、5-19 頁。
18. 遠藤貢、ソマリアにおける『紛争』とその現代的課題、海外事情、査読なし、57、2009、2-22 頁。
19. 柴宜弘、セルビア：コソヴォ独立と EU 加盟とのあいだで、拡大ヨーロッパと東アジアの地域再編、査読なし、巻無し、2009、183-190 頁。
20. 柴宜弘、ユーゴスラヴィアの解体：その原因をめぐって、歴史評論、査読あり、716、2009、57-64 頁。
21. 柴宜弘、ユーゴスラヴィア連邦の解体：歴史的視点からの再検討、西洋史研究、査読あり、38、2009、157-167 頁。

[学会発表] (計 11 件)

1. 石田淳、逆説と不合理の国際政治学：国際関係論における知の構図、日本国際政治学会、2012 年 10 月 19 日、名古屋国際会議場 (名古屋市)。
2. Mitsugi ENDO, Paradox of Human Security: Collapsed State and Piracy off Somalia, Interdisciplinary Symposium on Human Security, 2012 年 3 月 29 日、ノースイースタンイリノイ大学 (米国)。
3. 遠藤貢、「崩壊国家／(失敗(破綻)国家)」と国際秩序、日本国際政治学会、2011 年 11 月 11 日、つくば国際会議場(つくば市)。
4. Nobuhiro SHIBA, Various Kinds of Regional Cooperation in the Balkans, The Seventh ECPD International Conference, 2011 年 10 月 22 日、Milocer (モンテネグロ)。
5. Mitsugi ENDO, Japan and the World after 3. 11, ICWIP セミナー(招待講演)、2011 年 7 月 22 日、ペチュ大学 (ハンガリー)。
6. 遠藤貢、ソマリランド：未(非)承認国家における民主主義実践の現状と課

- 題、日本アフリカ学会、2011年5月21日、弘前大学(弘前市)。
7. 阪本拓人、脆弱な国家の「地域主義」：アフリカの角における国家主権と地域協調、日本国際政治学会、2010年10月30日、札幌コンベンションセンター(札幌市)。
  8. Nobuhiro SHIBA, Human Security and Reconciliation through History Education: A Case of the Balkans, The Sixth ECPD International Conference, 2010年10月29日、Brioni Islands(クロアチア)。
  9. 柴宜弘、体制転換後の歴史認識の変化—旧ユーゴ諸国にとっての社会主義ユーゴスラヴィア、ロシア東欧学会大会、2010年10月23日、天理大学(天理市)。
  10. 遠藤貢、ポストアパルトヘイト期における南アフリカの連合政治：『国民党／新国民党』解散をめぐる政治過程を中心として、日本アフリカ学会、2010年5月29日、奈良文化会館(奈良市)。
  11. Nobuhiro SHIBA, Revising Contemporary History in Japan, National Convention, American Association for the Advancement of Slavic Studies, 2009年11月15日、Marriott Copley Place, Boston(米国)。

〔図書〕(計11件)

1. 山本吉宣・羽場久美子・押村高・柴宜弘ほか、ミネルヴァ書房、国際政治から考える東アジア共同体、2012、320頁。
2. 柴宜弘ほか、山川出版社、東欧地域研究の現在、2012、380頁。
3. 柴宜弘・百瀬亮司、溪水社、旧ユーゴ研究の最前線、2012、197頁。
4. 佐藤章・遠藤貢ほか、アジア経済研究所、紛争と国家形成：アフリカ・中東からの視角、2012、252頁。
5. 酒井啓亘・寺谷広司・西村弓ほか、有斐閣、国際法、2011、795頁。
6. 美根美樹・遠藤貢ほか、新評論、グローバル化・変革主体・NGO、2011、292頁。
7. 真島一郎・遠藤貢ほか、平凡社、二〇世紀〈アフリカ〉の個体形成 南北アメリカ・カリブ・アフリカからの問い、2011、766頁。
8. 阪本拓人、書籍工房早山、領域統治の統合と分裂：北東アフリカ諸国を事例とするマルチエージェント・シミュレーション分析、2011、256頁。
9. 遠藤貢ほか、アジア経済研究所、新興民主主義国における政党の動態と変容、2010、341頁。

10. 稲田十一・遠藤貢ほか、有斐閣、開発と平和：脆弱国家支援論、2009、296頁。
11. 大澤真幸・姜尚中・柴宜弘ほか、有斐閣、ナショナリズム論・入門、2009、428頁。

〔その他〕

ホームページ等  
 東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラムイベントページ(本研究共催のシンポジウム・セミナーの情報が記載)  
<http://hsp.c.u-tokyo.ac.jp/seminars.htm>  
 1  
 東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム図書室ページ(本研究で活用した文献の多くが所蔵)  
<http://hsp.c.u-tokyo.ac.jp/lib/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中井 和夫 (NAKAI KAZUO)  
 東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
 研究者番号： 40188868

(2) 研究分担者

石田 淳 (ISHIDA ATSUSHI)  
 東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
 研究者番号： 90285081  
遠藤貢 (ENDO MITSUGI)  
 東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
 研究者番号： 70251311

(3) 連携研究者

柴宜弘 (SHIBA NOBUHIRO)  
 東京大学・名誉教授  
 (2009年度まで東京大学・大学院総合文化研究科・教授)  
 研究者番号： 50187390  
西村弓 (NISHIMURA YUMI)  
 東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
 研究者番号： 50282512  
阪本拓人 (SAKAMOTO TAKUTO)  
 東京大学・大学院総合文化研究科・助教  
 研究者番号： 40456182